

今、マダニが危ない！！

最近ニュースになっている重症熱性血小板減少症候群（SFTS）はウイルスをマダニが媒介して感染し、西日本ではこれまで53人が感染し、発熱や出血などの症状を訴え、21人が死亡しました。マダニは北海道から九州まで23道府県で見つかっており、またこのウイルスに有効なワクチンはなく、今後気温の上昇とともに分布域や被害が拡大する恐れがあり十分な注意が必要です。

《マダニが媒介する感染症》

①重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

最近になりSFTSウイルスを媒介することが解明されました。嘔吐、下痢、頭痛などの症状を引き起こし、最悪の場合死に至ります。重症熱性血小板減少症候群自体は昔から日本にあったとされる病気で4類感染症に分類されています。

②ライム病

ノネズミやシカ、野鳥などが持っている病原体のボレリアが感染することによって起きる、人獣共通感染症のひとつです。感染症法では四類感染症に分類されます。名前の由来は1975年に、アメリカ合衆国コネチカット州のオールドラムで最初に確認されたことで付けられました。刺傷箇所の赤い斑点、全身の倦怠感、頭痛、嘔吐、発熱、関節痛などの症状がでます。

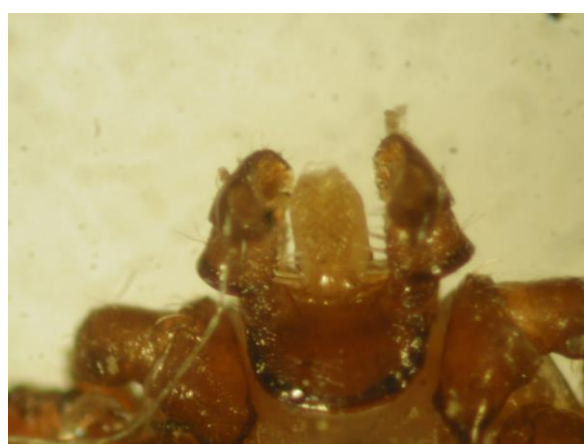
③日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアという病原体の感染によって発症します。関東より西の地域で見られるダニ媒介性疾患です。4類感染症に分類され、症状は風疹に似ていて、発疹や発熱の症状がでます。

全国で毎年50～100人程度の感染が確認され、今までに4件の死亡例があります。



マダニ



マダニ口器

☆マダニの生息調査、駆除等のご相談は（公社）神奈川県ペストコントロール協会へお問い合わせください